

WebSAM DeploymentManager Ver6.1

SQL Server 2012へのアップグレード手順書

—第 1 版—

改版履歴

版数	改版日付	改版内容
1	2013/03/14	<ul style="list-style-type: none">・新規作成。・2013/03まで製品サイトで公開していた「WebSAM DeploymentManager Ver6.1 SQL Server 2012 製品版のデータベース構築手順書」(第1版)を本書に統合しました。

目次

1. 使用しているデータベース(DPMDBIインスタンス)をSQL Server 2012へアップグレードする手順.....	5
2. SQL Server 2012にデータベース(DPMDBIインスタンス)を構築する手順	7
2.1. データベース(DPMDBIインスタンス)の作成.....	7
2.2. DPMサーバのインストール	7
3. アンインストール	10

商標について

- ・ WebSAMは日本電気株式会社の登録商標です。
- ・ Microsoftは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

はじめに

本書は、WebSAM DeploymentManager Ver6.1(以降、DPM)で使用しているデータベースをSQL Server 2012へアップグレードする手順、およびSQL Server 2012にDPMで使用するデータベースを構築する手順について説明します。

注意

- 使用しているデータベースを SQL Server 2012 へバージョンアップ/エディションアップする場合は、以下の両方の条件を満たしている必要があります。
 - ・DPM Ver6.1 に対応している SQL Server のバージョン/エディションであること。
 - ・アップグレード先となる SQL Server 2012 の該当エディションへアップグレードパス(以下に記載)があること。
<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/ms143393.aspx>
- DPM Ver6.12 で SQL Server 2012 Express を使用する場合は、「インストレーションガイド 2.1 DPM サーバをインストールする」を参照して、DPM サーバをインストールしてください。(DPM Ver6.12 には、SQL Server 2012 Express を同梱していますので、本書の手順は必要ありません。)

ヒント

- DPM は、管理対象マシンの情報などの管理用に Microsoft 社が無償で提供している Microsoft SQL Server の Express エディションを同梱しています。同梱内容については、「ファーストステップガイド 3.2.1 システム要件」を参照してください。
- 本書で説明しているインストール手順以外は、「インストレーションガイド」を参照してください。以下の製品サイトから、最新版を入手できます。
http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/deploy_win/
- SigmaSystemCenter、VirtualPCCenter に同梱している DPM を使用している場合は、以下の SigmaSystemCenter の製品サイトも参照してください。
<http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/SigmaSystemCenter/>

1. 使用しているデータベース(DPMDBI インスタンス)を SQL Server 2012 へアップグレードする手順

本章では、使用しているデータベース(DPMDBIインスタンス)をSQL Server 2012にアップグレードする手順について説明します。

注意

- アップグレードする前の SQL Server(SQL Server 2005/SQL Server 2008/SQL Server 2008 R2)に修正プログラムや最新の Service Pack が適用されていることを確認してください。Service Pack が適用されていない状態で SQL Server 2012 へアップグレードを行うとアップグレードが中断されて、正しく完了することができません。
- アップグレード前に Microsoft 社のページ(以下)を参照して、システム要件を満たしていること、注意事項などを確認しておいてください。
 - ・バージョンをアップグレードする場合
<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/ms144267.aspx>
 - ・上位エディションにアップグレードする場合
<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc707783.aspx>
- DPM Ver6.10/6.11 を使用している場合は、アップグレードする前に.NET Framework 4、および.NET Framework 4 日本語 Language Pack をインストールしてください。

- (1) データベース(DPMDBI インスタンス)がインストールされたマシンに、管理者権限を持つユーザでログオンします。
- (2) 「スタート」メニューから「管理ツール」→「サービス」を選択し、「DeploymentManager」で始まる名前のサービスをすべて停止します。
- (3) Microsoft 社のページ(以下)を参照して、アップグレードを行ってください。
 - ・バージョンをアップグレードする場合
<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/ms144267.aspx>
 - ・上位エディションにアップグレードする場合
<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc707783.aspx>

注意

- x64 OS上で使用しているSQL ServerのExpressエディション(x86)をSQL Server 2012 Expressにアップグレードする場合は、SQL Server 2012 Expressのインストーラは、MicrosoftダウンロードセンターからSQLEXPRESS_x86(x86/x64両方のOSへインストールできるもの)を使用してください。
また、インストーラを実行する際は、コマンドプロンプトで「/X86」オプションを付けて実行してください。
- 「SQL Server インストールセンター」の設定内容については、以下に注意してください。
 - 「オプション」画面:「プロセッサの種類」で"x86"を選択してください。
(x64 OS上のSQL Server(x86)をSQL Server 2012にアップグレードする場合のみ)
 - 「インスタンスの選択」画面:「DPMDBI」を選択してください。
- アップグレードインストール時に以下のメッセージが表示された場合は、下記に記載の[対処方法]を実施してください。

[メッセージ]

次のエラーが発生しました:

パス 'C:\Program Files\Microsoft SQL Server\110\License Terms\

SQLServer2012(SP1)_License_ENT_1041.rtf'へのアクセスが拒否されました。

[再試行] をクリックしてやり直すか、[キャンセル] をクリックしてこの操作を取り消し、セットアップを続行してください。

[対処方法]

上記のメッセージに表示されたファイルのプロパティを表示して、属性の「読み取り専用」チェックボックスのチェックを外してください。その後、「再試行」をクリックして、アップグレードを続行してください。

(4) (2)で停止したサービスをすべて開始します。

以上で、SQL Server 2012へのアップグレードは完了です。

注意

DPM Ver6.10/6.11を使用している場合は、「プログラムと機能」などからMicrosoft SQL Server 2008 R2 Native Clientをアンインストールしないでください。(SQL Server 2012へアップグレードした後も継続して使用するためです。)

2. SQL Server 2012 にデータベース(DPMDBI インスタンス)を構築する手順

本章では、SQL Server 2012にデータベース(DPMDBIインスタンス)を構築する手順について説明します。

2.1. データベース(DPMDBI インスタンス)の作成

データベース(DPMDBIインスタンス)の作成手順について説明します。

- (1) データベース(DPMDBI インスタンス)を作成するマシンに、管理者権限を持つユーザでログインします。
- (2) Microsoft 社のページ(以下)を参照して、データベース(DPMDBI インスタンス)を作成してください。
<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/ms143219.aspx>

注意

「SQL Server インストールセンター」の設定内容については、以下に注意してください。

- ・「機能の選択」画面:「データベース エンジン サービス」と「SQL Server レプリケーション」チェックボックスにチェックを入れてください。
- ・「インスタンスの選択」画面:「DPMDBI」と入力してください。
- ・「サーバーの構成」画面:「SQL Server Agent」と「SQL Server Browser」のスタートアップの種類を「無効」に設定してください。
- ・「データベース エンジンの構成」画面:「サーバーの構成」タブを選択し、「Windows 認証モード」を選択して、「SQL Server 管理者の指定」で「現在のユーザーの追加」ボタンをクリックしてください。

- (3) コマンドプロンプトを起動して、下記コマンドを実行します。

```
SQLCMD.EXE -E -S ".\DPMDBI" -Q "alter server role [sysadmin] add member [NT AUTHORITY\SYSTEM]"
```

2.2. DPM サーバのインストール

DPMサーバのインストール、および設定手順について説明します。

■DPM Ver6.12をインストールする場合

「インストレーションガイド 2.1 DPMサーバをインストールする」を参照して、DPMサーバをインストールしてください。

■DPM Ver6.10/6.11をインストールする場合

以下の手順に沿ってDPMサーバのインストール、および設定を行ってください。

- (1) 「インストレーションガイド 2.1 DPMサーバをインストールする」を参照して、DPMサーバをインストールしてください。

注意

- 「インストール先の選択」画面で「次へ」ボタンをクリックすると、以下のエラーが表示されます。動作上問題ありませんので、「OK」ボタンをクリックし、インストールを進めてください。



- DPM Ver6.10/6.11 では、Microsoft SQL Server 2008 R2 Native Client を使用します (DPM サーバのインストール時に一緒にインストールされます。) ので、「プログラムと機能」などからアンインストールしないでください。

- (2) 「スタート」メニューから「管理ツール」→「サービス」を選択し、「DeploymentManager」で始まる名前のサービスをすべて停止します。
- (3) 「スタート」メニュー→「プログラムとファイルの検索」に「regedit」を入力後、「OK」ボタンをクリックします。
- (4) 「レジストリ エディタ」が起動しますので、以下のレジストリを追加します。
 - ・キー：
 - SQL Server 2012(x86)の場合
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥DeploymentManager_DB
 - SQL Server 2012(x64)の場合
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥NEC¥DeploymentManager_DB
 - ・名前: DBInstallDir
 - ・データ: C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL11.DPMDBI¥MSSQL¥DATA
 - ・名前: VersionDatabase
 - ・データ: 6.1x

※xには、使用している DPM サーバのリビジョン番号を入力してください。

注意

レジストリエディタの使い方を誤ると、深刻な問題が発生することがあります。レジストリの編集には十分に注意してください。

- (5) コマンドプロンプトを起動して、以下のコマンドを実行します。
(下記コマンドは、表記の都合上 2 行で記載していますが、1 行で入力してください。)

```
SQLCMD.EXE -E -S ".¥DPMDBI" -i "<DPM サーバのインストールフォルダ>¥db_install.sql" -o  
"C:¥temp¥DBInst.log"
```

例)SQL Server 2012(x86)の場合

```
SQLCMD.EXE -E -S ".¥DPMDBI" -i "C:¥Program Files (x86)¥NEC¥DeploymentManager¥  
db_install.sql" -o "C: ¥temp¥DBInst.log"
```

ヒント

- 「C:¥temp¥DBInst.log」は、ログファイルの出力先です。任意のファイルパスを指定してください。
- ファイルパスに存在しているフォルダを指定してください。

(6) (5)で作成した「DBInst.log」に下記のような情報が出力されていることを確認してください。

```
-----  
NULL  
  
(1 行処理されました)  
  
(1 行処理されました)  
データベース コンテキストが 'DPM' に変更されました。  
  
-----  
STATUS CODE:2101  
データベース コンテキストが 'DPM' に変更されました。  
データベース 'DPM' の 400 ページ、ファイル 1 のファイル 'DPM' を処理しました。  
データベース 'DPM' の 8 ページ、ファイル 1 のファイル 'DPM_LOG' を処理しました。  
BACKUP DATABASE により 408 ページが 0.502 秒間で正常に処理されました (6.338 MB/秒)。  
データベース コンテキストが 'master' に変更されました。  
  
-----  
0
```

(7) (2)で停止したサービスをすべて開始します。

以上で、データベース(DPMDBIインスタンス)の構築は完了です。

3. アンインストール

本章では、データベース(DPMDBIインスタンス)をアンインストールする手順について説明します。
データベース(DPMDBIインスタンス)以外のコンポーネントについては、「インストールガイド」を参照してください。

注意

- データベース(DPMDBI インスタンス)をアンインストールする前に以下を参照して、注意事項などを確認しておいてください。
<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/ms143412.aspx>
- データベース(DPMDBI インスタンス)をアンインストール後にDPMサーバをアンインストールすると、以下の画面が表示されます。
動作上問題ありませんので、「OK」ボタンをクリックして、アンインストールを進めてください。



- (1) DPM サーバをインストールしているマシンに、管理者権限を持つユーザでログオンします。
- (2) Microsoft 社のページ(以下)を参照して、データベース(DPMDBI インスタンス)をアンインストールしてください。
<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/ms143412.aspx>

注意

「SQL Server インストールセンター」の「インスタンスの選択」画面では、「DPMDBI」を選択してください。

- (3) 以下フォルダ配下のファイルをすべて削除してください。
 - SQL Server 2005 から SQL Server 2012 へアップグレードした場合：
C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.x\MSSQL\Data
※xには、インスタンス数の数値が入ります。
 - SQL Server 2008/SQL Server 2008 R2 から SQL Server 2012 へアップグレードした場合：
C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL10_50.DPMDBI\MSSQL\Data
 - SQL Server 2012 をインストールした場合：
C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL11.DPMDBI\MSSQL\Data

以上で、データベース(DPMDBIインスタンス)のアンインストールは完了です。